仙台サミット
交通ルールの浸透と安全な交通行動への反映
～自転車・小型電動モビリティとの共存を目指して～

2025/11/26

公益財団法人　国際交通安全学会

2522A研究調査プロジェクト

開催概要

交通ルールの浸透と安全な交通行動への反映
～自転車・小型電動モビリティとの共存を目指して～

- **開催日時**：2025年11月26日（水）　13:30～17:00
- **開催場所**：仙台市民会館
- **主催**：公益財団法人国際交通安全学会 2522Aプロジェクト
- **後援**：仙台市
- **参加者：29名**
- **開催趣旨**：自転車や小型電動モビリティの利用拡大に伴い、交通ルール遵守と安全行動の徹底が重要課題となっています。特に来年度導入予定の青切符制度は、市民の理解と適切な対応が求められます。
  本サミットでは、仙台市を舞台に「共存と安全推進」をテーマに掲げ、分科会を通じて走行空間、混合交通、ながら運転の課題を議論し、市民に向けた提言を発信することで、交通ルールの浸透と安全な交通行動への実現を目指します。

開催概要

交通ルールの浸透と安全な交通行動への反映
～自転車・小型電動モビリティとの共存を目指して～

- **プログラム**
  - **全体会議（展示室：B1）**

① 導入 サミットの趣旨説明　東北工業大学総合教育センター　教授　小川和久先生
② 小型電動モビリティの現状と課題　名古屋工業大学　教授　鈴木弘司先生
③ 自転車の安全な利活用推進について
仙台市市民局生活安全安心部自転車交通安全課課長　佐々木朝一郎様

  - **分科会（会議室：2F）**

●分科会1：自転車運転の安全性・走行性に適合した空間整備とは
●分科会2：混合交通を考える　～小型電動モビリティとの共存～
●分科会3：安全運転の本質とは何か　～ながら運転から考える～

  - **成果の共有と宣言（展示室：B1）**

セッション１

・開催趣旨説明　小川先生

・小型電動モビリティの現状と課題

小型電動モビリティの利用状況の共有や事故の特徴について発表いただいた。

・自転車の安全な利活用推進について

仙台市の自転車利用の現状や課題、アンケート調査内容、通行空間について発表いただいた。

分科会

■ 議論の実施概要

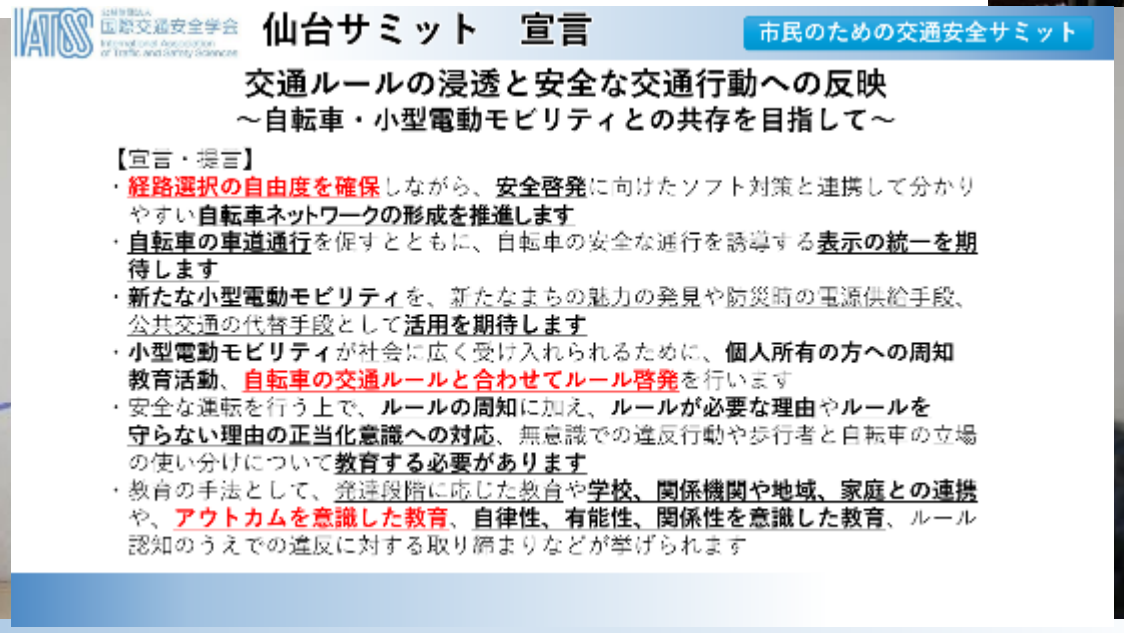
- 共通テーマについて、話題提供者による現状・課題の発表を踏まえて議論を実施。
- 各分科会は10名程度の少人数ながら、90分では時間が足りないほど活発な意見交換が行われた。

【実施された3つの分科会】

- **自転車運転の安全性・走行性に適合した空間整備とは**
- **混合交通を考える** ～小型電動モビリティとの共存～
- **安全運転の本質とは何か** ～ながら運転から考える～

共有と宣言

- 各分科会で話し合った内容の共有を行った。
- その後、共有結果を基に各分科会のキーとなる要素を入れながら、提言内容のまとめを参加者と共に行った。
- 提言内容は今後、国際交通安全学会のHPで公開し、広く発信していく予定。



仙台サミット　宣言

市民のための交通安全サミット

交通ルールの浸透と安全な交通行動への反映
～自転車・小型電動モビリティとの共存を目指して～

【宣言・提言】

- 経路選択の自由度を確保しながら、安全啓発に向けたソフト対策と連携して分かりやすい自転車ネットワークの形成を推進します
- 自転車の車道通行を促すとともに、自転車の安全な通行を誘導する表示の統一を期待します
- 新たな小型電動モビリティを、新たなまちの魅力の発見や防災時の電源供給手段、公共交通の代替手段として活用を期待します
- 小型電動モビリティが社会に広く受け入れられるために、個人所有の方への周知教育活動、自転車の交通ルールと合わせてルール啓発を行います
- 安全な運転を行う上で、ルールの周知に加え、ルールが必要な理由やルールを守らない理由の正当化意識への対応、無意識での違反行動や歩行者と自転車の立場の使い分けについて教育する必要があります
- 教育の手法として、発達段階に応じた教育や学校、関係機関や地域、家庭との連携や、アウトカムを意識した教育、自律性、有能性、関係性を意識した教育、ルール認知のうえでの違反に対する取り締まりなどが挙げられます

分科会のまとめ資料

自転車運転の安全性・走行性に適合した空間整備とは

（１）自転車の車道通行を促進するための自転車ネットワークに向けて

・自転車ネットワーク形成の目的を改めて認識した上で検討
・自転車利用者の属性に応じた経路選択の自由度を確保
・幹線道路と非幹線道路で整備のメリハリをつけ、自動車の理解も促進。
・自転車ネットワーク路線以外でも車道通行を促進（広報・啓発等）

（２）車道通行したいと思える安全で分かりやすい自転車通行空間整備に向けて

・自転車通行空間の連続性を担保。そのために、単路部だけでなく交差点も自転車通行空間の幅員を確保
（左折車との事故に対する安全性にも配慮。自転車専用信号の導入も検討）
・停止位置、二段階右折等を含め案内表示は統一しシンプルにする
・広報・啓発等のソフト対策との連携は必須

混合交通を考える　～小型電動モビリティとの共存～

（１）新たな小型電動モビリティの活用に向けて

・中心市街地における移動による知らなかったまちの魅力の発見
・防災時の電源供給手段、公共交通の代替交通手段としての活用
・物流や公共交通の人材不足へ対応

（２）小型電動モビリティが社会に広く受け入れられるために

・今後増加するであろう個人所有の方への周知として高校や大学での教育活動
・現状自転車ルールが徹底されていないことを踏まえて、自転車の交通ルールと合わせて電動キックボードのルールを周知する
（自転車と特定小型原動機付自転車で同じルールと違うルールの明示）

「適切なルールで利用してもらうことが社会的受容性を高めることにつながるため、日常の交通での普及が大切」

安全運転の本質とは何か　～ながら運転から考える～

（１）安全な運転を行うための教育について

・ルールの周知に加え、ルールが必要な理由
（運転への集中・他者への影響）
・事故に至らなかった成功体験や「少しなら大丈夫」と正当化する意識への対応
・無意識での違反行動や歩行者と自転車の立場の使い分け

（２）新たな教育手法に向けて

・発達段階に応じた教育
・学校、関係機関、地域、家庭との連携
・アウトプットだけでなくアウトカムを意識した教育
・自律性、有能性、関係性（自分事化・主体性）を意識した教育
・ルールを知っているが守らない場合には取り締まりが必要

仙台サミット　宣言

仙台サミット　宣言

交通ルールの浸透と安全な交通行動への反映
～自転車・小型電動モビリティとの共存を目指して～

- 経路選択の自由度を確保しながら、自転車ネットワークの形成を推進します
- 車道通行したいと思える、安全で分かりやすい自転車通行空間を整備します
- 日常でも非常時でも役立つ、小型電動モビリティの新たな活用方法を探求します
- 日常利用の中で交通ルールが浸透することで、自転車と小型電動モビリティが共存し受け入れられる社会を目指します
- なぜ交通ルールが必要なのか、自他の両視点から安全運転の本質を理解する教育を、学校、地域、家庭、関係機関と連携しながら推進します
- 学びのアウトカムを意識し、理想的な交通社会の将来像を共有できるような活動を推進します